認知症予防専門臨床検査技師に認知症予防の中で期待すること

浦上　克哉

鳥取大学医学部保健学科認知症予防学講座

認定認知症領域検査技師制度が定着してきつつあるが、臨床検査技師の皆様には認知症予防にさらに高い関心を持って取り組んで頂きたい。2025年には認知症患者数が700万人を超えると推計されており、これは65歳以上の5人に1人という数字である。認知症予防は第1次予防である発症予防だけではなく、早期発見・早期治療の第2次予防、そして進行予防である第3次予防まで含んだ予防の概念を正しく理解し、全ての予防段階に関わって頂きたい。病院内においては認知症患者のみならず軽度認知障害（MCI）や正常な認知機能の高齢者が多くおられ、早期発見に寄与することができる。疾患修飾薬が開発されMCI、プレクリニカルAD(未発症のアルツハイマー型認知症)の早期診断が期待されている。MCIやプレクリニカルADの早期診断に嗅覚機能検査が役立つと考えられ、認知症予防専門臨床検査技師にはより積極的に嗅覚機能検査に関わって欲しい。病院内に留まらず、地域における認知症予防の啓発事業、予防事業などにも貢献して欲しい。認知症予防については世の中に、まだまだ正しく理解されておらず、認知症予防の取り組みも地域格差が大きい。地域の行政と連携しての活動も視野に入れて欲しい。新カリキュラムが2年前から導入され認知症の項目がかなり充実しており、卒前教育と卒後教育の融合がこれからの課題と考える。認知症予防専門検査技師の役割は無限のものと思われ、この制度が発展し社会に貢献されることを大いに期待している。